

# 令和5年度 愛知県中山間地域等振興対策会議 議事録概要

日 時：令和5年10月31日(火)  
午前9時50分から11時10分まで  
場 所：愛知県自治センター第二会議室  
出席者数：委員3名、事務局7名

## 1 中山間地域等直接支払について

資料1「令和4年度中山間地域等直接支払の実施状況」、  
パンフレット「令和5年度版中山間地域等直接支払制度」について、事務局説明。

### 【委員】

(多面的機能を増進する活動について) 水田は夏の水張りなどにより気候変動対策に有効である。

作付けしていない水田をイチョウウキゴケやデンジソウといった貴重な水田野草の保全エリアにすることも考えられる。

特徴のある水田は人が見に来て地域が盛り上がる。

### 【委員】

集落戦略を作成する際に、集落の人だけでなく、専門家の意見を聞くと良い。市町村職員が精通していれば良いが、そうでない場合もある。IターンやUターン方の知恵を借りても良い。

### 【委員】

役員報酬の額はどのくらいか。それは個人配分に入っているのか。

### 【事務局】

役員報酬の額は集落が定める。額は2千円から27万円である。これは個人配分とは別である。

### 【委員】

期の途中なので変化がないが、次期の動向はどうか。全体に増えるのか減るのか。

### 【事務局】

全体の動向はまだつかめない。高齢化でやめたいというところがあるが、今年度から新たに始めた集落もある。

### 【委員】

センサスを追えば5年ごとに高齢化が進んでいることがわかり、あまり現状維持できるとは考えにくい。

新規就農の受入を何とかできないか。新規就農の人に農地を手当するのは難しいので、現地で間に入ってくれる人がいれば良い。新しい力を斡旋して活性化できるような方法を考えられると良いのではないか。

**【委員】**

参加人数が27人増えているが、どこか特定の協定か、まばらに増えたか。

**【事務局】**

集落数は変わらないので、増えた集落、減った集落があり、結果として全体の人数が増えた。

**【委員】**

「担い手への農地集積」、「担い手への農作業の委託」といった人材育成確保は、割合としては少ないが、うまくいっている事例があれば教えてほしい。

**【事務局】**

集落によっては法人組織があり、その地域の農地を管理している。

**【委員】**

交付金の使用方法で積立が増えているが、やめるときに返還するのか。

**【事務局】**

積立は使い切る。協定書に積立を何に使うか記載する必要がある。積立が多い協定では、コンバインやトラクタの更新や農地災害への対応との記載がある。

**【委員】**

次年度は第5期の総括をすることになる。会議で随分前から5年後、10年度は高齢化で厳しいという話をしている。5期で25年経って、予想どおり厳しくなっているのか、意外と世代交代が進んでがんばっているのか。大きな意味で25年を振り返ると良い。例えば、集落の代表者が、25年前と交代されているのかどうか。

**【委員】**

「協定の担い手となる新たな人材の育成・確保」「新規就農者等による農業生産」の事例について情報収集して他の集落に提供できると良い。「高付加価値型農業」「魚類・昆虫類の保護」「鳥類の餌場の確保」も同じである。取り組む集落は少ないが、良い事例があるのではないか。

**【委員】**

「道・水路管理費」は出役した人への日当が含まれているのか。個人配分とは別なのか。

**【事務局】**

日当が含まれていると思われるが、他に資材が含まれる。個人配分は面積に応じて支払われると思われる。

**【委員】**

第6期があるとしても、やめる集落がどのくらいあるのかが気になる。感触はどうか。

**【事務局】**

西尾市と豊川市では第6期から始める予定であるが、維持できずにやめる集落は一定数あると思われる。また、豊田市の押井のように広域化するところもあるが、リーダーがいないとできない。

**【委員】**

地域のリーダーは県・市・JAのOBが多いのではないか。そのような人ががんばってもらいたい。

**【委員】**

制度とは話は変わるが、クラウドファンディングを活用する手もある。自然保護を絡めて都会の人の手を借りる方法もある。また、福島県では地元出身者にDMを集中的に送った事例もある。

**【事務局】**

豊田市で外から来た若い人が主になり、クラウドファンディングで施設の改修をしている事例がある。外からの人を受け入れる土壌があるからできることである。

**【委員】**

制度とは直接関係しないが、今年は暑かった。長野県のブドウや新潟県の米など、工夫しながら生産販売している。気候変動対策も必要である。

## 2 中山間ふるさと・水と土保全対策事業について

資料2-1「令和4年度中山間ふるさと・水と土保全対策事業実績について」、  
資料2-2「令和5年度中山間ふるさと・水と土保全対策事業計画について」、  
資料2-3「ふるさと・水と土指導員について」、  
資料2-4「中山間ふるさと・水と土保全対策事業実施計画（計画期間：令和2年度～令和6年度）」について、事務局説明。

### 【委員】

若者や女性の指導員が増えるとよい。既存団体とは別に、若者でチームをつくと始めやすいのではないかと感じている。

また、既に何かしらの活動をしている人に声をかけることで広がっていくのではないか。

### 【委員】

基金運用について、制約はあるのだろうが、今は金利が上がってきているので、運用を考えられると良い。

### 【委員】

新城市の若者議会で、地域の農業振興をどう考えているか投げかけられると良い。市と連携を取りながら、若者の意見を聞ける場をつくと参考になる。

### 【委員】

若者も増えるといいが、定年後の活動として、例えばJAや県等の職員が指導員になる道筋づくりがされると良い。

○協議終了